



ホア ビン (平和)

HOA BINHレポート

JVPF 内閣府認証 特定非営利活動法人 日本ベトナム平和友好連絡会議(日越友好連)
NPO Japan Vietnam Peace and Friendship Promotion Council

〒162-0801 東京都新宿区山吹町333番地 辻ビル405 TEL 03-3268-4387 FAX 03-3268-6079
c/o. IFCC.#405, TsujiBLD,333, Yamabuki-cho, shinjuku-ku, Tokyo, Japan TEL(81)3-3268-4387/FAX(81)3-3268-6079
http://ifcc1985.com jvccpf@rmail.plala.or.jp



会費/正会員:(個人)5,000円 (団体)50,000円 口座名/日本ベトナム平和友好連絡会議
◎郵便振替 00110-2-188872 ◎三菱東京UFJ銀行・江戸川橋支店(普通)1215225
◎ゆうちょ銀行・〇一九(ゼロイチキョウ)店(当座)0188872

生き証人の叫び “私の体の中では戦争が終わっていない” ～南部解放・統一40周年を迎えたベトナム～

2015年4月30日、ベトナムは南部解放・統一40周年を迎えました。JVPFは佐藤晴男副会長を団長に総勢16人の記念訪問団を派遣しました。村山富市会長はベトナム側から招待状を受けましたが、諸般の事情で参加できませんでした。しかし、この訪問団には吉川はじめ衆議院議員が参加いただきベトナムの諸友好団体との会談に臨席いただきました。

訪問団の行程は以下のようになりました。28日、ホーチミン市に到着。村山記念 JVPF 日本語学校訪問。29日、ベトナム南部のカンボジア国境にある“オウムの嘴”と称された「ホーチミンルート」の出口タイニン省で枯葉剤爆弾被害調査と慰問活動、夜はホーチミン市友好委員会連合会食会。30日、記念行事参加。終了後戦争犯罪博物館見学し古都フエへ。5月1日、世界遺産のフエ王宮見学後ハノイへ。2日、ホーチミン廟見学、ベトナム友好委員会連合とベトナム日本友好協会合同の歓迎食事会参加、枯葉剤被害者協会(VAVA)との会談、枯葉剤爆弾被害者リハビリ施設“タンズアン・ホアビン村”見学——猛暑の中盛りだくさんの内容の訪問となりました。

ベトナム戦争終結後40周年となり、ベトナム国民も戦後生まれが多数になり豊かになりつつある一方、ベトナム戦争の惨禍は実際の感覚としては“遠



多様な民族衣装で行進する若者たち

く”になってきています。

しかし、JVPFが長年活動してきた枯葉剤爆弾被害者支援の意義は少しも減ってきていないように思われます。

被害者は「どうしてそんなに悲しい顔をしているの」という問いに今でも「私の体の中では戦争が終わっていません」と叫んでいます。戦争犯罪の生き証人の叫びを受けとめることは被爆国として70周年を迎える日本国民が共有すべきことだと思います。

特に放射能という制御不能化学物質の垂れ流しが終焉できない日本国民としては、

本号の内容

- 解放40周年記念訪問団報告。タイニンで枯れ葉剤被害者調査・慰問。ハノイで枯れ葉剤被害者協会、被害者リハビリ施設「ホアビン村」訪問
- JVPF 第八回総会報告
- 活動報告——埼玉 JVPF、広島 NGO 時遊人。

訪問団日誌

28日ホーチミン市のタンソニャット空港に到着し、村山記念 JVPF 日本語学校を訪問しました。当日はフンヴォン記念日でベトナムは休日でしたが村山日本語学校がホーチミ



ン市青年団と共同で開設している青少年のための日本語学校クラスの学生たちが歓迎してくれました。

※フンヴォン記念日とは紀元前にベトナム北部から中部までを初めて統一したとされるフン・ヴォン王を旧暦の3月10日に祭る日です。旧暦のため毎年、日付が変わります。

28日夜はホーチミン市友好委員会連合との会食会が持たれました。ホーチミン市側からはし・フン・クック会長らが参加。



29日は、タイニン省の枯れ葉剤被害状況視察と被害者家庭慰問のため、早朝6時30分にホテル出発。※タイニン省での枯れ葉剤被害視察、慰問活動の詳細は3P参照。

タイニン省には有名なカオダイ教の総本山があります。



タイニン省からの帰途、解放軍司令部跡“クチ・トンネル見学”。



記念日の前夜の29日夜、ベトナム友好委員会連合（会長、ヴ・スアン・ホン）主催で各国の参加者を招いた歓迎宴が持たれました。



30日の記念日は早朝5時30分にホテル出発。式典は7時30分から開始。式典終了後、海外からの参加者は統一会堂（元・南ベトナム大統領官邸）でグエン・スアン・フック第一副首相との会見が行われました。



その後、枯れ葉剤被害者協会（VAVA）との会談、枯れ葉剤被害者リハビリ施設「タンズアン・ホアピン（平和）村」の見学など、予定を終え深夜便で帰国しました。※VAVAと平和村の詳細は4P参照



30日午後、戦争犯罪博物館を見学し、空路、世界遺産の古都フエへ。

5月1日はフエで迎えました。1968年1月のフエでのテト（旧正月）攻勢は王宮跡にベトナムの国旗を打ちたて世界の目をベトナムに向けました。



5月2日は前日フエからハノイに移動して訪問団最後の日となりました。ホーチミン廟は特に熱暑。



昼食はベトナム友好委員会連合、ベトナム日本友好協会（会長：グエン・フー・ビン元駐日ベトナム大使）の招待で和やかに意見交換しました。

南部解放・統一 40 周年記念訪問団報告(1)

今回の訪問団も、JVPF の活動の柱である枯れ葉剤爆弾被害者の現在を調査、慰問してきました。JVPF は組織名に友好のみでなくあえて平和を冠しました。その意味は戦争反対、戦争へと続く道への反対、さらに原爆被曝国の国民として友好活動の実りが平和とともにしかありえない、と意識したからでした。ホーチミンルートの最南部の出口で、ベトナム南部カンボジア国境沿いの地形から“オウムの嘴”と称されるタイニン省を訪れました。枯れ葉剤爆弾投下の大きかった地域です。

**タイニン省 VAVA で被害概要を聞く
10 年前と現状は変わっていない**

香川県 金村敦司

4月28日、ホーチミンに到着しました。約10年ぶりに訪れたホーチミン市は街の様相がずいぶん変わり近代化した町並みとなっていました。29日、カンボジア国境にあるタイニン省へ2時間かけて移動しました、ホーチミン市を離れると、バスの車窓からの風景は10年前と変わらず昔の様相のままでした。

タイニン省では最初に被害者協会



(VAVA)を訪れました。ベトナムは連休であったにも係らず会長以下出迎えていただき説明を受けました。

——タイニン省はベトナムで5番目に大きな枯れ葉剤被害を受けた場所であり、ベトナム戦争時はカンボジア国境付近のジャングルにベトナム南部解放戦線、北部軍隊が基地を作っていたため米軍から枯れ葉剤散布を受けました。

現在9064名の被害者（生存している）があり、タイニン省人口の1パーセントに当たり、第一世代4739人、第二世代3973人、第三世代352人とのこと。第一世代の被害者は直接の解放戦線側従軍者、住人、サイゴン政権の軍隊（南の軍隊）などとなっています。今では第三世代にも被害があらわれており、

奇形の子供は4000名を数えます。1家族で2～3名、多い家族では6名が奇形となって生まれてくるのが現実です。

被害者は社会の中では貧困状態にあります。2004年より貧困家庭の住居支援として「仁愛の家」建設を始めています。国内外から寄付を募り救済にあたっているそうです。また、タイニン省政府として健康調査を行い、病気の重さにより寄付を決定しています。

障害児童のためには子供が大きくなるまで支援しており、苦しい家族には毎月30万ドン（約500万円）の支援を行われます。中には1,500\$の支援を受け牛を飼育することにより生計を立てる被害者もいます。またコンピューター技術を習得して社会人となる方もいます。

このような予算はベトナム政府予算としても計上してもらおうが、タイニン省は被害者が多く大変だとのこと。VAVAにとって嬉しいことがあり、被害者への支援により300軒が古い家から新しい家へ建て替えられています。逆に寂しい事は、子供達の現状です。頭は良いが身体は悪く、学校へ行けないのが残念です。9～10才であっても身体は小さく、ベッドで横になり動けない子供が多くいます。高校生の中には、イスに座れなくて机の上に横になり勉強している方もいるそうです。動ける子供も特別な学校に通学しているそうです。

VAVAとしては、活動のための十分な基金がなく被害者への支援

が少額しかできない現実もあります。被害者のための学校も設立して17名が通学しています。20才であっても9～10才の外見の子供など、下は3才から上は20才まで通学しています。眼が無かったり、手が3本、足が4本等の状態で、男女の認識がなかったりしますので、社会生活、社会道徳を教えたり、自立のために野菜の栽培等を教えたりして生活出来るよう、主に生活自立のための指導をしています。また、身体リハビリの為の備品は全くそろっていません。——

今回の訪問でも、10年前との現状は変わっておらず、今後も今まで以上の支援が必要だと感じました。

家庭慰問① 南ベトナム軍兵士の子供

CHAU THANH 県 THANH DIEN 郡 TAN RHUAN 村

今回の慰問は特別な訪問となりました。JVPF は設立に先行した IFCC 国際友好文化センターの枯れ葉剤被害家庭慰問活動を継続していますが、足掛け20年に及ぶ家庭慰問活動で初めて南ベトナム軍兵士の被害者宅を訪問しました。

名前：チャン・バン・ミン (TRAN VAN NINH)、1977年生 39才 三男

症状：5人兄弟の3番目。病名は神経障害。話せない、理解できない。格子で囲まれた特別な部屋に住んでいた。



身体は大きいので、こうした監禁状態でないと両親も仕事に出かけることもできないのであろう。

他の兄弟妹：長男、指に障害あり。
次男、結婚しているが、生まれたこどもに指に障害あり。四男、健康である。妹、結婚している

両親：父親(TRAN VAN MOI)は南ベトナムサイゴン政府の元兵士。中部の南北攻防戦があった激戦地クアンチ省に南側兵士として従軍したという。ちなみに、このクアンチ省はJVPFが支援してきたタイビン省など北部の従軍した兵士に枯れ葉剤被害者が多かった地域。母親、ニャチャン出身。

支援：政府から毎月300,000ドンと薬の援助。

(記録：金村敦司)

家庭慰問② 右足の踝から下が無い～同じ症状の兄弟

CHAU THANH 県、TRI BINH 郡 XOM MOI 2 村

この家庭は父親が従軍しておらず地元の農民ということだった。住んでいる地帯は街から離れたジャン

グル地帯で戦時中は南ベトナム解放戦線基地があり爆撃も激しかったという。本人は戦時中この場所に居なかったが戦後この地帯に農民として入植したとのこと。このような従軍していない方々の被害家庭に出会うのは稀有だが、南部地帯で調査すると時々出会う。2014年12月訪問したピエンホア省でも米軍基地近隣の住民を親に持つ被害児童らに出会った。軍人関係者以外にも少しずつ支援の手がのべられ始めたことを思う。

名前：レイ・タイ・ミン LE THANH MINH (五男)、1992年生、24才
レイ・タン・トゥアン LE THANH TUAN (弟) 1996年生、19才

症状：右足に障害あり。踝から下が無い。兄弟が全く同じ症状。勤勉な賢そうな子供達



に見えるが、こうした症状の枯れ葉剤爆弾被害者がよく見受けられる。

五男は中学校を休学しリハビリセンターに通っていた。現在はバイク修理の仕事についている。六男は「夢は？」と聞かれ電気修理技師かコンピューター技師と答えた。

両親：父親、56才、米作の農民。母親、55才、地元出身。父親19才、母親18才の時結婚ということは戦時中ということになる。両親は言う「枯れ葉剤を浴びたのはジャングルの中と北軍の基地内ではないか」「枯れ葉剤のことはよく解らないがさびしい」。

その他の兄弟：五男、六男以外は全員結婚している。二番目(次男)の双子の孫に軽い(両足)障害がある。

援助：政府から一人300,000ドン(月)。VAVA から一人400,000ドン(月)
(記録：山根基嗣)

南部解放・統一40周年記念訪問団報告(2)

ハノイでも全国枯れ葉剤爆弾被害者協会(VAVA)、リハビリ施設タンスアン・ホアビン村を訪ねてきました。

被害者協会(VAVA)で概要を聞く

今回、ベトナム日程も最終日5月2日の午後からの訪問となりました。

始めに、会長から40周年記念式典に多くの国からの参加いただいたこと、特に日本は戦争時も今も変わらず助けていただいていること、に感謝の言葉が述べられ、さらにJVPFが枯れ葉剤被害者に対して長年にわたり支援をしてきていることにも感謝していると挨拶があり、説明を頂いた。

11年前にVAVAが設立され2

004年から今日までに全国で61ヶ所の支所があり、省や県区を入れると600ヶ所に増え、協会への入会も30万人を数えるそうです。被害者への賠償の追求、障害者への支援、軍縮平和の活動を行い、この活動についてベトナム政府も支持しているそうです。しかし、未だ毎月の支援できる額は少なく被害者の生活は貧しいのが実態であります。

VAVAが把握している被害者の

枯れ葉剤被害者協会(VAVA)の概略

2003年10月にベトナム枯れ葉剤被害者協会(VAVA)を設立し、2004年1月にアメリカで製薬会社を相手に裁判を提訴したが敗訴。最終的に09年3月連邦最高裁でも敗訴した。61の下部組織を持つ。その支部の下には地域ごとの組織もあるので単位組織は800くらいになる。登録会員30万人くらい。活動の柱は①被害者の賠償問題への取り組み、②国内外で援助の呼びかけ、③戦争反対と平和のための活動。

統計に関し幾つかの数字が紹介されました。軍人・民間人合わせて200万人の被害者がおり、その中で子供と孫が50万人を占めている、概算で300万人くらいになるのではないかと、戦争での直接の枯れ葉剤に晒された人は500万人になるとの



ことです。VAVAの会員は戦争参加者が多く70歳以上が多い。影響を受けた二世、三世なども多く、それに関連した家族の貧困も問題も大きい。

各省で調査を実施する中で、終戦後に復興の為に現地へ行き郷土へ戻って結婚して障害を持つ子供が産まれた場合の支援については区別されている実態があるとのJVPFからの指摘がありました。この問題はまだ解決していないとのこと。遺伝学的には、まだまだ解析されておらず外見からの分析であるとの報告がありました。

少ない時間の中で双方の意見を共有することが出来て今後も支援や協力を続けていく必要があるとの確認により、今回の訪問を終えました。(金丸)

枯れ葉剤支援者施設「タンスアン・ホアビン村」

今回訪れた5月2日はベトナムの連休中であり、生徒たちは休日のた

め不在でした。施設のドクターに説明を受けま

した。

——この施設はドイツのNGOの支援を受け1991年にリハビリ施設として開所。現在はベトナム厚生医療省の認可のもと病院として位置づけられその中にリハビリ施設としての機能もある形です。障害者は入所して医療支援とリハビリを行っています。

日本の友人たちからも多くの援助を受けています。例えばベトナムの枯れ葉剤障害児を支援する会/会長の松本マサ子さんから機織り機の寄贈を受け作業に使用しているとのこと。

訪問していただいたことを感謝致



タンスアン・ホアビン村素描

2002年2月、村山富市・元日本国総理大臣もJVPF会長として訪れたタンスアン・ホアビン村をJVPFは久しぶりに訪れました。ベトナムでの枯れ葉剤被害者支援の活動の原点は1995年4月IFCC国際友好文化センターの訪問団がこの枯れ葉剤爆弾被害者リハビリ施設「ホアビン村」を訪れたことに始まりました。

それから始まった枯れ葉剤爆弾被害者支援の活動とベトナムアンサンブルチャリティコンサートは今年(2015年)で20年目となります。

ちなみに、JVPF副会長の松浦正美さんが主宰するベトナムの子供たちを援助する会は1998年、同所で障害者の外科手術支援も行ってきています。

します。——

その後、宿泊施設、職業訓練所施設など案内していただいた。現在入所生徒は56人、最上級生は32才、最下級生は10才。入所期間は保護者が施設に生徒を受け取りに来るまで入所は可能である。作業所で生産した製品の販売はこの施設内で実施しており、チャリティーコンサートで販売することも可能とのこと。

JVPF大西理事長は訪問受け入れへの謝辞を述べたあと、被害を受けている子どもたちに憂いを持っているし、支援を継続したいと、お土産と寄付金40,000円を贈呈しました。(山根)

感想—参加して

「一も二もなく参加」

松本 文六

ベトナム訪問旅の案内が届き、一も二もなく参加することにした。

ベトナム人はフランスの植民地からの独立を目指して1950年末より闘い、その後のアメリカの介入をはねのけ1975年4月30日にベトナム南部を解放し、統一を果たした。そのような歴史を持つ国を一度自分の目で観たい。又、1960年代後半から10年間にわたるベトナム戦争の現実の一部と枯れ葉剤による健康障害等の報道を通じて、一度は訪問したいと考え

続けていた。

訪問して強い衝撃を感じた点は2つある。

一つ目は、枯れ葉剤による被害者自身をこの目で確認でき、戦争証跡博物館で枯れ葉剤による胎児障害と奇形児の写真を沢山観たこと。小頭症、四つん這いでしか歩けないこども、臍を境にして頭は2つ、下肢は2つ、上肢は4つのこども、顔の側面が一緒になったこども、針金のように細い四肢のこども等々の写真は枯れ葉剤の猛毒が、多くの胎児とこどもたちにすさまじい障害を与えたことに驚くばかりであった。私には、これらの写真はこの世のものとは思えなかった。まさに、戦争が、枯れ葉剤という化



学兵器等が人類の破滅をもたらすものだ実感した。

二つ目は、ベトナム戦争時の闘いを象徴するクチトンネル地下道、森の中の落とし穴、それに侵略米軍に対する殺傷道具(人間串刺し殺傷器)の模型等を目の当りにし、戦争とはこうも凄惨を極めるものかと思わず身震いした。

他方、明るい印象を得たのは、

南部・統一 40 周年式典行事に民間「日本代表団」として参画できたことだ。それは、これからのベトナムの国造りの熱い息吹を感じた。

今、安倍政権は、戦争のできる国へと盲進しているが、安倍首相にはホーチミン市の戦争証跡博物館を一度しっかり観てもらいたいものだ。

旅行社の配慮も大きかったと思うが、食事には全く違和感を覚えなかった。中でも超細の米麺（ベトナムうどん？）は絶品でそのスープも殊に美味しかった。Xin cảm ơn（多謝）！

（医師／社会医療法人財団天心堂
／大分市）

新鮮なものを頂いた

山根 基嗣

タンソニャット国際空港（ホーチミン）に到着する。やはり暑い。熱帯ということで強烈なスクール・雷鳴が私たちを迎えてくれる。到着後、日本語学校（村山富市記

念館）に行く。連休ということもあり、学校は休校であったが、児童たちは「日本の歌」を一生懸命歌い私たちを迎えてくる。感謝感激である。

私がベトナムに興味・関心を抱いたのは、ベトナム戦争後の映像の中で、若者たちがバイクに2人～3人乗り、エネルギーに生活をしている姿からである。私の期待を裏切ることなく、躍動感を感じさせてもらう。

今回の訪問の目的は、「ベトナム南部解放・統一 40 周年記念行事」「枯れ葉剤爆弾被害者訪問等」であった。ベトナム戦争時、アメリカ軍が投下した枯れ葉剤で苦しんでいる一世・二世の方たちを訪問する。枯れ葉剤爆弾被害者の実態は、人権の尊厳を引き裂くものである。アメリカの戦争責任を追及し、被害者の人権を回復するための活動をよ

り一層することの必要性を痛感した。

ホーチミン廟を訪問する。多くのベトナム人がホーチミンを「建国の父」として尊敬している姿を拝見することができた。ホーチミン自身の信条は庶民の目線で暮らし、考え、行動していることに共感するものを感じる。

今回のベトナム訪問は、新鮮なものを頂いたように思える。私にも「何かできるのではないかと」自問自答する思いに駆られた。（広島県尾道市）



後列、右から3番目、筆者。ホーチミン廟にて

2015アンサンブルチャリティコンサート開催にご協力をお願いします

2015年は20回目となります。近年、ベトナム戦争被害への関心も疎遠になり開催条件が難しくなっていますが、枯れ葉剤被害者支援継続の意義は高まっているような社会状況です。会員、関係者のご協力を仰ぎたく呼びかけ致します。

2015日程調整表

- 10月16日（金）宮城・登米市／サンシャイン佐沼ホール
- 10月17日（土）盛岡市／盛岡芸術劇場メインホール
- 10月18日（日）（※大震災被災地慰問・宮古市）（予定）
- 10月19日（月）山形県内（計画中）
- 10月20日（火）新潟・長岡市／アオーレ長岡市民交流ホール
- 10月21日（水）（未定）**
- 10月22日（木）三重・四日市／市民文化会館第2ホール
- 10月23日（金）名古屋市（予定）**
- 10月24日（土）岐阜市／じゅうろくプラザ2Fホール
- 10月25日（日）長野・岡谷市／アイトピア岡谷
- 10月26日（月）神奈川・相模原市／相模原南市民ホール
- 10月27日（火）埼玉・東松山市／市民活動センターホール
- 10月28日（水）東京・豊島区／豊島区民文化ホール
- 10月29日（木）（未定）**
- 10月30日（金）福島・会津若松市／市民文化センターホール

掲示板

- ◆埼玉 JVPF は7月28日から、ハノイ、クアンナム訪問団派遣
- ◆鹿児島 JVPF は「南部解放・統一 40 周年記念」の集いを計画中。
- ◆鹿児島 JVPF は、ラオドン省の少数民族出身高校生奨学金の2015年度サポーターを募集中。
【問合せ先】FAX:099-263-6732
Eメール:srnosaki@io.ocn.ne.jp
- ◆広島 HVPF はベトナムの南部解放・統一 40 周年、広島原爆被曝 70 周年で平和のための諸事業を計画。その中で『「ベトナムがく」市民講座』を7月19日の第1講座「テーマ：今なお続く枯葉剤被害」を皮切りに翌年3月27日の第5講座まで開催予定。※詳細は
Eメール：akagi@mbox.co.jp、
FAX：082-423-8060へ。
また、最新版の「枯れ葉剤被害者追跡記録DVD」上映や、10月の記念訪問団を計画。
- ◆埼玉・越谷市では有志が最新版「枯れ葉剤被害者追跡記録DVD」上映を8月、計画中。
- ◆2015 秋 JVPF 友好訪問団派遣。今年もチャリティーコンサート終了後、枯れ葉剤被害者調査と慰問の訪問団を12月初旬に計画。詳細は、8月末発表。

JVPF第8回通常総会報告

5月30日、ルポール麹町（東京）で全国から会員の参加を得て、第8回通常総会が開催されました。提案されたすべての議案は満場一致で採択、確認されました。

総会には、ベトナム大使館からNhuyen Phung Hong公使もお出でいただき挨拶をいただきました。終了後、恒例の「懇親会」が持たれ親睦を深め合うことができました。

2014年度事業報告

【組織活動】一要旨

2014年度は、JVPF活動開始14年目となり、2015年のベトナムの南部解放・統一40周年を迎える前年でした。2015年4月30日の記念日にあわせ佐藤晴男副会長を団長に総勢16人の団を派遣することができました。

第八回総会



挨拶頂いた Nhuyen Phung Hong 公使

団には吉川はじめ衆議院議員も参加。

2014年”ディエンピエンフーの戦い”（5月7日が記念日）から60周年でもありました。これ

に関連し、ハノイは”ディエンピエンフーの戦い”後解放され60周年を迎えましたが、ハノイ市政府は記念式典でJVPF村山富一会長へ「ハノイ市名誉市民賞授与」しました。

枯れ葉剤被害者支援の活動に関連し2014年8月にはベトナム枯れ葉剤被害者協会（VAVA）訪日団と9月にはベトナム国会外務委員会訪日団と枯れ葉剤被害に関する意見交換が行われました。

組織化の強化発展のための活動について——略

【事業】

1. 教育支援事業（1）—少数民族出身高校生奨学金支援

現在、広島ベトナム平和友好協会

のクアンチ省、鹿児島JVPFがラムドン省、社団法人・時遊人のニンビン省は継続中です。社団法人・時遊人はまたタイビン省の小学校でも奨学金支援を行っています。

昨年でフット省での奨学金支援は終了しましたが、ベトナム友好委員会連合の提案を受けてバクザン省、ハノイ市で貧困小学生の調査を行いました。

2. 教育支援事業（2）—村山記念JVPF日本語学校

村山学校の第一期修了生が大分のAPUと明治大学を卒業しました。2007年の開設から8年、やっと成果が芽吹き始めてきました。また、経営も収支バランスが取れるようになりました。これには香川県にある協和化学工業株式会社の3ヵ年計画予定の運営援助金が大きく寄与しています。

3. 国際協力事業—枯葉剤被害者支援のための活動

追跡記録DVD制作を作成に着手しました。昨年7月末クアンナム、ダナン、ハノイで取材、10月にハノイ、タイビンで取材、12月日本で専門家の取材、現在、編集作業中です。

フクシマ放射能被害さえマスコミの露出が減り「棄民」とされかねない状態ですが、枯葉剤爆弾被害は戦争被害としてまだ制御不能化学物質被害として厳然と残っています。現在と将来のため風化や忘却をしてはならないことをJVPFはベトナムでは問い続けなければと思います。

2014年度は12月に訪問団を実施しホーチミン近郊のドンナン省、北部のタイビン省で調査・慰問を実施してきました。ドンナイ省は枯葉剤残存物があるホットスポットのピエンホア米軍基地跡があるところです。

また、埼玉JVPFはクアンナム省で「仁愛の家作り支援」を続け、広島HVPFも激戦地クアンチ省で被害者

支援を実施してきました。

4. 国際協力事業（2）—枯葉剤爆弾被害者への「自立支援プログラム」

タイビンボランティアはやむなく中止になりましたが、12月実施のJVPF訪問団は施設慰問を実施。

5. 国際協力事業（3）—ベトナム民族アンサンブルチャリティコンサート

2014年は19回目となりました。ベトナム戦争及び枯葉剤爆弾被害も遠くになり開催も厳しくなりつつあります。公演開催は10箇所に留まりました。広島尾道公演は台風で当日中止という事態に見舞われましたが、公演謝礼金を寄付の形で頂きました。実行委員会の方々の志に頭が下がります。JVPFの活動の柱として継続していかなければならないと意を強くしました。

6. 国際交流事業（1）—いけばなデモンストレーション

日本側の条件（スポンサー確保など）が整わず開催できず。

7. 国際交流事業（2）—少中学生夏季日本語研修

実現できず。

8. 国際交流事業（3）—文化交流（日越オペラ交流）

2014年5月9日のオペラ歌手・角田和弘さん主宰（角田音楽企画）によるホーチミン市国立音楽院と共催の「日越交流コンサート」が開催されました。



9. その他の事業（1）—会員及び企業の事業及び事業展開への「情報提供の事業」

SONL A省の日本の漢方薬調査団を受け入れ、日本の漢方薬関連先視察をサポートしてきました。

2015年度事業計画

【組織活動】

- 2015年度はJVPPF活動開始16周年目となります。同時にベトナムの南部解放・統一40周年、ベトナム社会主義(民主)共和国建国70周年の年となります。JVPPFとしては戦後50周年に発せられた村山首相談話の精神を大事にし、村山会長がベトナム訪問の際、常々挨拶で触れられる「アジアの平和なくしてベトナムの発展もない」という立場で一層の友好活動に努めたいと思います。
- 組織の発展強化のための活動一略

【事業】

- 教育支援事業(1) 一少数民族出身高校生及び貧困学生奨学金支援一略
- 教育支援事業(2) 一村山記念JVPPF日本語学校一略
- 国際協力事業(1) 一枯葉剤被害者支援のための活動一略
- 国際協力事業(2) 一枯葉剤爆弾被害者への「自立支援プログラム」一略
- 国際協力事業(3) 一ベトナム民族アンサンブルチャリティコンサート一略
- 国際交流事業(1) 一いけばなデモンストレーションなどの文化交流

一略

- 国際交流事業(2) 一小中学生夏季日本語研修一略
- その他の事業(1) 一会員及び企業の事業及び事業展開への「情報提供の事業」一略

2014年度活動計算書

I 経常収益	3,030,421
II 経常費用	2,947,352
当期経常増減額	83,069
次期繰越正味財産額	-123,809

2015年度活動予算書

I 経常利益	4,035,000
II 経常費用	3,940,000
当期経常増減額	95,000
前期繰越正味増減額	-123,809
次期繰越正味増減額	-28,809

活動報告

解放・統一式典は教育の場

埼玉 JVPPF 副会長 平松伴子

ベトナムの「南部解放・統一記念日」は各省によって異なる。クアンナム省の記念日は3月24日。隣接するダナン市の記念日は3月29日である。ダナン市には最後までアメリカ軍に従う人々がいたため、解放が4日遅れたとのこと。



クアンナムの3月24日の記念式典は盛大なものだった。この式典には①クアンナム省解放40周年、②ベトナム共産党設立85周年、③英雄ベトナム母の像除幕式、④新クアンナム博物館開館、⑤クアンナム省人民委員会招待夕食会などの行事が含まれていたからである。

会場は「母」の像の前の広場(1

ベトナムへのご旅行は
 旅行社アイエフシーへ
 ●航空券のみから特殊手配まで
 TEL 03-3268-6014
 FAX 03-3268-6079

5ヘクタール)で、舞台には大スクリーンが設置されていた。11人の子供を戦争で失ったゲン・ティ・トウ母さんをモデルにした「母の像」は、高さ18m、長さ120m、7年かけて完成した巨大なもの。像の中は博物館になっており、50人の英雄的母の資料が展示されていて、若者たちの学習の場になっている。

今回の記念式典には5000人近い若者たちが参加し、大スクリーンのアメリカによる爆撃場面を見ていた。この式典に参加して、分かったことは、この盛大な式典は即ち、若者たちにベトナム戦争の悲惨な被害を知らせ、教育する場だということであった。

私たち日本人が怠った子供への歴史教育。特に中国、朝鮮、アジア諸国への侵略加害の事実を隠蔽してきた現在、「村山談話」の重要性を痛感させられた式典参加であった。

ナムティン省教育訓練局より表彰

社団法人 時遊人

2009年からこれまでにナムティン省のタントイン中学校およびロックアン小学校には書籍1500冊以上、本棚4台、文房具の詰まったランドセル45個、スピーカー2台、ノートPC6台、コピー機1台を寄贈し、累計80名の生徒に奨学金支援を行ってきました。

奨学金は振り込むのではなく、現地に訪問し生徒に直接手渡しすることで奨学金の流れを明確にし、支援者様と生徒の人間関係の構築をも応援しています。

2015年2月には支援者20名と一緒に現地訪問してまいりました。2月10日にナムティン省タントイン中学校を訪問した際には生徒達は旗を作って待っていてくださり、歌や踊りで歓迎していただきました。

支援者の皆様からの手紙を生徒へ直接手渡したり、全校生徒に向けて支援者の方々からのメッセージを伝えたりするなど温かい交流をはかるなか、ナムティン省教育訓練局から表彰され、感謝状をいただきました。

また後日、当団体のみならず支援者企業様もナムティン省教育訓練局から同様に表彰されました。

当団体の活動を通じて支援企業様



が評価されたことを大変嬉しく思います。これからも継続した支援をしていくことに尽力していきたいと思っております。